

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 東海財務局長

【提出日】 平成22年10月1日

【四半期会計期間】 第40期第1四半期(自 平成22年5月21日  
至 平成22年8月20日)

【会社名】 ケイティケイ株式会社

【英訳名】 ktk INC.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 伊藤 主計

【本店の所在の場所】 名古屋市東区泉二丁目3番3号

【電話番号】 (052)931-1881(代表)

【事務連絡者氏名】 常務取締役管理部長 木村 裕史

【最寄りの連絡場所】 名古屋市東区泉二丁目3番3号

【電話番号】 (052)931-1881(代表)

【事務連絡者氏名】 常務取締役管理部長 木村 裕史

【縦覧に供する場所】 株式会社大阪証券取引所  
(大阪市中央区北浜一丁目8番16号)  
ケイティケイ株式会社 東京支店  
(東京都豊島区東池袋一丁目17番8号  
NBF池袋シティビル9F)  
ケイティケイ株式会社 大阪支店  
(大阪市中央区石町一丁目2番8号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第39期 第1四半期連結 累計(会計)期間	第40期 第1四半期連結 累計(会計)期間	第39期
会計期間	自 平成21年 5月21日 至 平成21年 8月20日	自 平成22年 5月21日 至 平成22年 8月20日	自 平成21年 5月21日 至 平成22年 5月20日
売上高 (千円)	2,278,446	2,155,893	8,983,741
経常利益又は経常損失 ( ) (千円)	26,234	8,709	173,285
四半期(当期)純利益又 は四半期純損失( ) (千円)	12,223	10,006	94,878
純資産額 (千円)	2,041,312	2,061,691	2,098,701
総資産額 (千円)	4,429,657	4,247,241	4,289,988
1株当たり純資産額 (円)	561.19	566.81	576.97
1株当たり四半期(当 期)純利益金額又は四半 期純損失金額( ) (円)	3.36	2.75	26.08
潜在株式調整後 1株当たり四半期 (当期)純利益金額 (円)			
自己資本比率 (%)	46.1	48.5	48.9
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	56,799	19,115	39,256
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	16,786	12,053	150,953
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	29,062	26,426	69,608
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (千円)	631,479	835,364	854,729
従業員数 (名)	234	246	251

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2 売上高には、消費税等は含まれておりません。
- 3 第39期第1四半期連結累計(会計)期間、第39期の潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
- 4 第40期第1四半期連結累計(会計)期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
- 5 従業員数は、就業人員数であり、使用人兼務役員1名は含んでおりません。

## 2 【事業の内容】

当第1四半期連結会計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容に重要な変更はありません。また、主要な関係会社についても異動はありません。

## 3 【関係会社の状況】

当第1四半期連結会計期間において、重要な関係会社の異動はありません。

## 4 【従業員の状況】

### (1) 連結会社の状況

平成22年8月20日現在

従業員数(名)	246〔61〕
---------	---------

- (注) 1 従業員数は、就業人員数であり、使用人兼務役員1名は含んでおりません。  
2 従業員数欄の〔外書〕は、臨時従業員(パートタイマー、派遣社員等)の当第1四半期連結会計期間の平均雇用人員であります。

### (2) 提出会社の状況

平成22年8月20日現在

従業員数(名)	189〔18〕
---------	---------

- (注) 1 従業員数は就業人員であり、連結子会社への出向社員1名及び使用人兼務役員1名は含んでおりません。  
2 従業員数欄の〔外書〕は、臨時従業員(パートタイマー、派遣社員等)の当第1四半期会計期間の平均雇用人員であります。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【生産、受注及び販売の状況】

#### (1) 生産実績

当社グループにおいて、製品の生産は行っておりませんが、連結子会社である株式会社アイオーテクノにおいて、トナーカートリッジ等の再生業務を行っております。

当第1四半期連結会計期間における再生実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	生産高(千円)	前年同四半期比(%)
サプライ事業	388,231	
合計	388,231	

(注) 1 セグメント間取引については、相殺消去しております。  
 2 金額は、販売価格によっております。  
 3 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

#### (2) 受注実績

該当事項はありません。

#### (3) 販売実績

当第1四半期連結会計期間における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	販売高(千円)	前年同四半期比(%)
サプライ事業	2,096,313	
ソリューション事業	59,579	
合計	2,155,893	

(注) 1 セグメント間取引については、相殺消去しております。  
 2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

### 2 【事業等のリスク】

当第1四半期連結会計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。

また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

### 3 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等は行われておりません。

#### 4 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

##### (1) 経営成績の分析

当第1四半期連結会計期間(平成22年5月21日～平成22年8月20日)におけるわが国経済は、持ち直しつつあるものの引き続き厳しい経済状況が続いております。

このような中で、当社グループを取り巻く経営環境は企業の収益改善活動による消耗品の使用量低下の影響を引き続き受けるとともに、企業が設備投資に対する慎重な姿勢を崩していないことから、IT投資抑制の影響を大きく受けることになりました。

これらの結果、売上高は2,155,893千円(前年同四半期比5.4%減)となりました。営業損失は6,015千円(前年同四半期連結会計期間は28,444千円の営業利益)、経常損失は8,709千円(前年同四半期連結会計期間は26,234千円の経常利益)、四半期純損失は10,006千円(前年同四半期連結会計期間は12,223千円の四半期純利益)となりました。

なお、セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

##### (サプライ事業)

当社グループの主力商品であるリサイクル商品(リパクトナー)は、競合各社との価格競争が続くことで販売単価が下落し、売上高は減少いたしました。

OAサプライ商品は、新品トナーカートリッジを中心に紙製品のPPC用紙及びオーダー用紙の販売量が落ち込み、売上高は減少いたしました。

その他においては、当社グループ独自のWeb購買システム「ケイティケイ はっするネット」の導入件数増加により一般事務用品などの売上高は増加いたしました。また、オフィス家具等の案件が減少することで売上高が減少いたしました。

これらの結果、売上高は2,096,475千円、セグメント損失は5,664千円となりました。

##### (ソリューション事業)

IT商品は、企業のセキュリティ関連の投資抑制を受け、電子署名付加サーバ及びメール暗号化サーバソフトウェア(SPIS-BOXシリーズ)をはじめとし、ASP総合サービス「@Securemail」といったメールセキュリティ関連商品の売上高が減少いたしました。

これらの結果、売上高は60,847千円、セグメント損失は2,903千円となりました。

##### (2) 財政状態の分析

当第1四半期連結会計期間末における総資産は前連結会計年度末に比べ42,747千円減少し、4,247,241千円となりました。

流動資産は、繰延税金資産が24,478千円増加したこと及び現金及び預金が21,460千円、受取手形及び売掛金が49,251千円減少したこと等により前連結会計年度末に比べ50,994千円減少の2,581,175千円となりました。固定資産は、有形固定資産が7,868千円増加したこと等により前連結会計年度末に比べ8,246千円増加の1,666,065千円となりました。

流動負債は、支払手形及び買掛金が12,632千円増加、賞与引当金が49,152千円発生したこと及びその他流動負債が70,467千円減少したこと等により前連結会計年度末に比べ16,119千円減少の2,067,952千円となりました。

固定負債は、繰延税金負債が8,279千円、その他固定負債が15,986千円増加したこと及び役員退職慰労引当金が12,440千円減少したこと等により前連結会計年度末に比べ10,381千円増加の117,597千円となりました。

純資産は、利益剰余金が35,468千円減少したこと等により前連結会計年度末に比べ37,010千円減少の2,061,691千円となりました。

### (3) キャッシュ・フローの状況

当第1四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物(以下、「資金」という)は、前第1四半期連結会計期間末に比べ203,885千円増加し、835,364千円となりました。(前連結会計年度末に比べ19,364千円減少)

当第1四半期連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

#### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果獲得した資金は19,115千円となりました。なお、前第1四半期連結会計期間は56,799千円の使用でした。これは、主に賞与引当金の増加額49,152千円、売上債権の減少額49,719千円、税金等調整前四半期純損失9,660千円、役員退職慰労引当金の減少額12,440千円、役員賞与引当金の減少額8,700千円によるものであります。

#### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、前第1四半期連結会計期間に比べ4,733千円減少し12,053千円となりました。これは、主に有形・無形固定資産の取得による支出19,338千円、保険積立金の解約による収入9,935千円によるものであります。

#### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は、前第1四半期連結会計期間に比べ2,636千円減少し26,426千円となりました。これは、主に配当金の支払額24,256千円によるものであります。

### (4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結会計期間において、当連結会社の事業上及び財務上の対処すべき課題に変更及び新たに生じた課題はありません。

### (5) 研究開発活動

当社グループでは、サプライ事業のリサイクル新商品に関する研究開発活動を連結子会社である株式会社アイオーテクノにて行っており、当第1四半期連結会計期間の研究開発費は5,874千円であります。

なお、当第1四半期連結会計期間において当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

### 第3 【設備の状況】

(1) 主要な設備の状況

当第1四半期連結会計期間において、主要な設備に重要な異動はありません。

(2) 設備の新設、除却等の計画

当第1四半期連結会計期間において、前連結会計年度末に計画中であった重要な設備の新設、除却等について、重要な変更並びに重要な設備計画の完了はありません。

また、当第1四半期連結会計期間において、新たに確定した重要な設備の新設、除却等の計画はありません。

## 第4 【提出会社の状況】

### 1 【株式等の状況】

#### (1) 【株式の総数等】

##### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	12,000,000
計	12,000,000

##### 【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成22年8月20日)	提出日現在 発行数(株) (平成22年10月1日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	3,675,000	3,675,000	大阪証券取引所 (JASDAQ市場)	権利内容に何ら限定のない当 社における標準となる株式で あり、単元株式数は100株で あります。
計	3,675,000	3,675,000		

#### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

#### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

#### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

#### (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成22年8月20日		3,675		294,675		259,675

#### (6) 【大株主の状況】

大量保有報告書の写しの送付がなく、当第1四半期会計期間において、大株主の異動は把握しておりま  
 せん。

(7) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の議決権の状況については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(平成22年5月20日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成22年5月20日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 37,500		権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
完全議決権株式(その他)	普通株式3,636,900	36,369	同上
単元未満株式	普通株式 600		同上
発行済株式総数	3,675,000		
総株主の議決権		36,369	

(注)「単元未満株式」の欄の普通株式には、当社所有の自己株式50株を含んでおります。

【自己株式等】

平成22年5月20日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) ケイティケイ株式会社	名古屋市東区泉 二丁目3番3号	37,500		37,500	1.02
計		37,500		37,500	1.02

2 【株価の推移】

【当該四半期累計期間における月別最高・最低株価】

月別	平成22年 6月	7月	8月
最高(円)	309	299	306
最低(円)	251	271	265

(注) 最高・最低株価は、大阪証券取引所(JASDAQ市場)におけるものであります。

3 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、本四半期報告書提出日までの役員の異動はありません。

## 第5 【経理の状況】

### 1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。)に基づいて作成しております。

なお、前第1四半期連結会計期間(平成21年5月21日から平成21年8月20日まで)及び前第1四半期連結累計期間(平成21年5月21日から平成21年8月20日まで)は、改正前の四半期連結財務諸表規則に基づき、当第1四半期連結会計期間(平成22年5月21日から平成22年8月20日まで)及び当第1四半期連結累計期間(平成22年5月21日から平成22年8月20日まで)は、改正後の四半期連結財務諸表規則に基づいて作成しております。

### 2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、前第1四半期連結会計期間(平成21年5月21日から平成21年8月20日まで)及び前第1四半期連結累計期間(平成21年5月21日から平成21年8月20日まで)に係る四半期連結財務諸表並びに当第1四半期連結会計期間(平成22年5月21日から平成22年8月20日まで)及び当第1四半期連結累計期間(平成22年5月21日から平成22年8月20日まで)に係る四半期連結財務諸表について、五十鈴監査法人により四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】  
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	当第1四半期連結会計期間末 (平成22年8月20日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年5月20日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	974,476	995,937
受取手形及び売掛金	1,339,159	1,388,411
有価証券	20,950	20,945
商品及び製品	119,455	125,412
仕掛品	939	1,770
原材料及び貯蔵品	41,696	43,562
その他	92,861	64,123
貸倒引当金	8,365	7,994
流動資産合計	2,581,175	2,632,169
固定資産		
有形固定資産		
土地	740,319	740,319
その他(純額)	418,825	410,956
有形固定資産合計	1,159,144	1,151,276
無形固定資産	145,289	144,406
投資その他の資産		
投資有価証券	54,219	56,237
その他	317,959	316,856
貸倒引当金	10,546	10,956
投資その他の資産合計	361,632	362,137
固定資産合計	1,666,065	1,657,819
資産合計	4,247,241	4,289,988
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	931,369	918,736
短期借入金	805,772	805,772
未払法人税等	16,375	15,112
賞与引当金	49,152	-
その他	265,283	344,451
流動負債合計	2,067,952	2,084,071
固定負債		
長期借入金	20,760	22,203
役員退職慰労引当金	45,737	58,177
その他	51,100	26,834
固定負債合計	117,597	107,215
負債合計	2,185,549	2,191,287

(単位：千円)

	当第1四半期連結会計期間末 (平成22年8月20日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年5月20日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	294,675	294,675
資本剰余金	259,675	259,675
利益剰余金	1,527,700	1,563,169
自己株式	20,908	20,883
株主資本合計	2,061,142	2,096,635
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	548	2,066
評価・換算差額等合計	548	2,066
純資産合計	2,061,691	2,098,701
負債純資産合計	4,247,241	4,289,988

(2)【四半期連結損益計算書】  
 【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成21年5月21日 至平成21年8月20日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成22年5月21日 至平成22年8月20日)
売上高	2,278,446	2,155,893
売上原価	1,708,702	1,619,271
売上総利益	569,744	536,621
販売費及び一般管理費	541,299	542,637
営業利益又は営業損失( )	28,444	6,015
営業外収益		
受取利息	98	55
受取配当金	340	470
受取家賃	581	392
受取手数料	1,264	221
その他	976	460
営業外収益合計	3,262	1,600
営業外費用		
支払利息	3,817	3,514
その他	1,655	779
営業外費用合計	5,472	4,293
経常利益又は経常損失( )	26,234	8,709
特別利益		
保険解約益	-	708
特別利益合計	-	708
特別損失		
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	-	1,659
投資有価証券評価損	2,043	-
特別損失合計	2,043	1,659
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期 純損失( )	24,191	9,660
法人税、住民税及び事業税	14,539	15,276
法人税等調整額	2,572	14,930
法人税等合計	11,967	346
少数株主損益調整前四半期純損失( )	-	10,006
四半期純利益又は四半期純損失( )	12,223	10,006

## (3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成21年5月21日 至平成21年8月20日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成22年5月21日 至平成22年8月20日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失( )	24,191	9,660
減価償却費	22,463	23,125
のれん償却額	1,546	1,546
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	-	1,659
貸倒引当金の増減額( は減少)	3,049	38
役員退職慰労引当金の増減額( は減少)	208,474	12,440
役員賞与引当金の増減額( は減少)	-	8,700
賞与引当金の増減額( は減少)	49,902	49,152
受取利息及び受取配当金	439	525
支払利息	3,817	3,514
有形固定資産除却損	1,071	98
保険解約損益( は益)	-	708
投資有価証券評価損益( は益)	2,043	-
売上債権の増減額( は増加)	3,898	49,719
たな卸資産の増減額( は増加)	6,343	8,653
仕入債務の増減額( は減少)	48,731	12,632
その他	120,683	86,171
小計	39,117	31,856
利息及び配当金の受取額	439	525
利息の支払額	3,819	3,498
法人税等の支払額	14,301	9,768
営業活動によるキャッシュ・フロー	56,799	19,115
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	3,414	4,907
定期預金の払戻による収入	6,006	7,003
有価証券の取得による支出	9	5
有形固定資産の取得による支出	6,532	10,977
無形固定資産の取得による支出	8,584	8,361
投資有価証券の取得による支出	758	768
差入保証金の差入による支出	2,261	637
差入保証金の回収による収入	2,559	-
保険積立金の積立による支出	3,071	3,335
保険積立金の解約による収入	-	9,935
長期前払費用の取得による支出	720	-
投資活動によるキャッシュ・フロー	16,786	12,053

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成21年5月21日 至平成21年8月20日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成22年5月21日 至平成22年8月20日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	5,193	1,443
リース債務の返済による支出	-	703
自己株式の取得による支出	-	24
配当金の支払額	23,869	24,256
財務活動によるキャッシュ・フロー	29,062	26,426
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	102,648	19,364
現金及び現金同等物の期首残高	734,127	854,729
現金及び現金同等物の四半期末残高	631,479	835,364

【継続企業の前提に関する事項】

当第1四半期連結会計期間(自平成22年5月21日 至平成22年8月20日)

該当事項はありません。

【四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更】

	当第1四半期連結会計期間 (自平成22年5月21日 至平成22年8月20日)
1 会計処理基準に関する事項の変更	<p>「資産除去債務に関する会計基準」等の適用</p> <p>当第1四半期連結会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号平成20年3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号平成20年3月31日)を適用しております。</p> <p>これにより、営業損失、経常損失は96千円、税金等調整前四半期純損失は1,755千円増加しております。また、当会計基準等の適用開始による資産除去債務の変動額は5,367千円であります。</p>

【表示方法の変更】

	当第1四半期連結会計期間 (自平成22年5月21日 至平成22年8月20日)
(四半期連結損益計算書関係)	<p>「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号平成20年12月26日)に基づき財務諸表等規則等の一部を改正する内閣府令(平成21年3月24日 内閣府令第5号)の適用に伴い、当第1四半期連結累計期間では、「少数株主損益調整前四半期純損失」の科目を表示しております。</p>

【簡便な会計処理】

	当第1四半期連結会計期間 (自平成22年5月21日 至平成22年8月20日)
1 一般債権の貸倒見積高の算定方法	<p>当第1四半期連結会計期間末の貸倒実績率等が前連結会計年度末に算定したものと著しい変化がないと認められるため、前連結会計年度末の貸倒実績率等を使用して貸倒見積高を算定しております。</p>
2 たな卸資産の評価方法	<p>当第1四半期連結会計期間末のたな卸高の算出に関しては、実地たな卸を省略し、前連結会計年度末の実地たな卸高を基礎として合理的な方法により算定する方法によっております。</p> <p>また、たな卸資産の簿価切下げに関しては、収益性の低下が明らかなものについてのみ正味売却価額を見積り、簿価切下げを行う方法によっております。</p>
3 固定資産の減価償却費の算定方法	<p>定率法を採用している資産については、連結会計年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定する方法によっております。</p>
4 経過勘定項目の算定方法	<p>合理的な算定方法による概算額で計上する方法によっております。</p>
5 法人税等並びに繰延税金資産及び繰延税金負債の算定方法	<p>法人税等の納付税額の算定に関しては、加味する加減算項目や税額控除項目を重要なものに限定する方法によっております。</p> <p>繰延税金資産の回収可能性の判断については、前連結会計年度末以降に経営環境等に著しい変化が生じておらず、一時差異等の発生状況について大幅な変動がないと認められるため、前連結会計年度において使用した将来の業績予測やタックス・プランニングを利用しております。</p>

【四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】

当第1四半期連結会計期間(自平成22年5月21日 至平成22年8月20日)

該当事項はありません。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

当第1四半期連結会計期間末 (平成22年8月20日)	前連結会計年度末 (平成22年5月20日)
有形固定資産の減価償却累計額 557,659千円	有形固定資産の減価償却累計額 548,364千円

(四半期連結損益計算書関係)

第1四半期連結累計期間

前第1四半期連結累計期間 (自平成21年5月21日 至平成21年8月20日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成22年5月21日 至平成22年8月20日)
販売費及び一般管理費のうちで主要な費目及び金額は次のとおりであります。	販売費及び一般管理費のうちで主要な費目及び金額は次のとおりであります。
給与手当 152,557千円	給与手当 156,647千円
賞与引当金繰入額 36,993千円	賞与引当金繰入額 33,645千円
役員退職慰労引当金繰入額 2,978千円	役員退職慰労引当金繰入額 2,519千円
貸倒引当金繰入額 3,375千円	貸倒引当金繰入額 484千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前第1四半期連結累計期間 (自平成21年5月21日 至平成21年8月20日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成22年5月21日 至平成22年8月20日)
現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係	現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係
現金及び預金 777,972千円	現金及び預金 974,476千円
預入期間が3か月超の定期預金 146,492千円	預入期間が3か月超の定期預金 139,112千円
現金及び現金同等物 631,479千円	現金及び現金同等物 835,364千円

(株主資本等関係)

当第1四半期連結会計期間末(平成22年8月20日)及び当第1四半期連結累計期間(自平成22年5月21日至平成22年8月20日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当第1四半期 連結会計期間末
普通株式(株)	3,675,000

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当第1四半期 連結会計期間末
普通株式(株)	37,642

### 3 配当に関する事項

#### (1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成22年8月10日 定時株主総会	普通株式	25,462	7	平成22年5月20日	平成22年8月11日	利益剰余金

(2) 基準日が当連結会計年度の開始の日から当四半期連結会計期間末までに属する配当のうち、配当の効力発生日が当四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

#### (金融商品関係)

金融商品の四半期連結貸借対照表計上額その他の金額は、前連結会計年度の末日と比較して著しい変動がありません。

#### (有価証券関係)

有価証券の四半期連結貸借対照表計上額その他の金額は、前連結会計年度の末日と比較して著しい変動がありません。

#### (デリバティブ取引関係)

当社グループはデリバティブ取引を行っていないため、該当事項はありません。

#### (ストック・オプション等関係)

該当事項はありません。

#### (セグメント情報等)

##### 【事業の種類別セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自平成21年5月21日 至 平成21年8月20日)

当社及び連結子会社は、トータルオフィスサプライヤーとして、同一セグメントに属するリサイクル商品、OAサプライ商品、IT商品等のオフィス関連商品の販売を事業としており、当該事業以外に事業の種類がないため、該当事項はありません。

##### 【所在地別セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自平成21年5月21日 至 平成21年8月20日)

本邦以外の国又は地域に所在する海外子会社及び重要な在外支店がないため該当事項はありません。

##### 【海外売上高】

前第1四半期連結累計期間(自平成21年5月21日 至 平成21年8月20日)

海外売上高がないため該当事項はありません。

【セグメント情報】

(追加情報)

当第1四半期連結会計期間より「セグメント情報等の開示に関する会計基準」(企業会計基準第17号 平成21年3月27日)及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日)を適用しております。

1 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、「お客様のビジネスをワンストップでトータルにサポート」するためオフィス関連商品の販売を主な事業内容としており、商品・サービスの特性に基づいて「サプライ事業」及び「ソリューション事業」の2つを報告セグメントとしております。

「サプライ事業」は、リサイクル商品、OAサプライ商品を中心としております。「ソリューション事業」は、インターネット等ネットワーク関連のIT商品を中心としております。

2 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

当第1四半期連結累計期間(自 平成22年5月21日 至 平成22年8月20日)

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額
	サプライ事業	ソリューション 事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	2,096,313	59,579	2,155,893		2,155,893
セグメント間の内部売上高 又は振替高	162	1,267	1,429	1,429	
計	2,096,475	60,847	2,157,322	1,429	2,155,893
セグメント損失( )	5,664	2,903	8,568	141	8,709

(注)1 セグメント損失の調整額は、全額セグメント間取引消去によるものであります。

2 セグメント損失は、四半期連結損益計算書の経常損失と調整を図っております。

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(資産除去債務関係)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1 1株当たり純資産額

当第1四半期連結会計期間末 (平成22年8月20日)		前連結会計年度末 (平成22年5月20日)	
1株当たり純資産	566.81円	1株当たり純資産	576.97円

(注) 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	当第1四半期連結会計期間末 (平成22年8月20日)	前連結会計年度末 (平成22年5月20日)
貸借対照表の純資産の部の合計額(千円)	2,061,691	2,098,701
普通株式に係る純資産額(千円)	2,061,691	2,098,701
普通株式の発行済株式数(株)	3,675,000	3,675,000
普通株式の自己株式数(株)	37,642	37,550
1株当たり純資産額の算定に用いられた普通株式の数(株)	3,637,358	3,637,450

2 1株当たり四半期純利益金額又は四半期純損失金額及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額

前第1四半期連結累計期間 (自平成21年5月21日 至平成21年8月20日)		当第1四半期連結累計期間 (自平成22年5月21日 至平成22年8月20日)	
1株当たり四半期純利益金額	3.36円	1株当たり四半期純損失金額	2.75円
潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。		潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。	

(注) 1株当たり四半期純利益又は1株当たり四半期純損失の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第1四半期連結累計期間 (自平成21年5月21日 至平成21年8月20日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成22年5月21日 至平成22年8月20日)
四半期連結損益計算書上の四半期純利益又は四半期純損失( )(千円)	12,223	10,006
普通株式に係る四半期純利益又は四半期純損失( )(千円)	12,223	10,006
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式の期中平均株式数(株)	3,637,450	3,637,371

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

(リース取引関係)

リース取引開始日が平成20年5月20日以前の所有権移転外ファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を適用しておりますが、当該取引の未経過リース料四半期末残高相当額その他の金額に、前連結会計年度の末日に比して著しい変動が認められないため記載しておりません。

2 【その他】

該当事項はありません。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成21年10月2日

ケイティケイ株式会社  
取締役会 御中

五十鈴監査法人

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 寺 本 喜 宥 印

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 西 野 賢 也 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているケイティケイ株式会社の平成21年5月21日から平成22年5月20日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間(平成21年5月21日から平成21年8月20日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成21年5月21日から平成21年8月20日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書及び四半期連結キャッシュ・フロー計算書について四半期レビューを行った。この四半期連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューは、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続により行われており、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べ限定された手続により行われた。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、ケイティケイ株式会社及び連結子会社の平成21年8月20日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成22年10月1日

ケイティケイ株式会社  
取締役会 御中

五十鈴監査法人

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 太 田 豊 印

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 西 野 賢 也 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているケイティケイ株式会社の平成22年5月21日から平成23年5月20日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間(平成22年5月21日から平成22年8月20日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成22年5月21日から平成22年8月20日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書及び四半期連結キャッシュ・フロー計算書について四半期レビューを行った。この四半期連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューは、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続により行われており、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べ限定された手続により行われた。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、ケイティケイ株式会社及び連結子会社の平成22年8月20日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。